

仙台長町未来共創センターにて 4 度目の一時滞在場所開設訓練を実施しました

実施日：2025 年 7 月 9 日

仙台長町未来共創センター(以下長町 FC)にて、7 月 9 日に一時滞在場所開設の自主訓練を実施しました。

当社は発災時に、仙台長町未来共創センターを一時滞在場所として開設する協定を仙台市等と締結しており、長町駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会（以下協議会）に所属しています。一時滞在場所の運営訓練は仙台市と協議会主体で開催される全体訓練の他に長町 FC での自主訓練を実施しており、自主訓練は 2022 年の開始より今回で 4 度目の開催となります。



一時滞在場所の目印となるのぼり



配布される食事を受け取る避難者



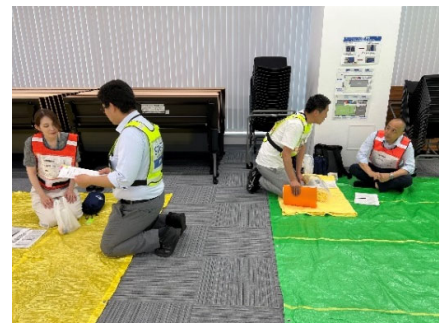
運営スタッフ間の報連相

訓練は実際の災害を想定し、4 者協定を締結している当社と(株)東北丸和ロジスティクス様のメンバーを中心に、長町 FC の入居企業様ご参加のもと行いました。

オブザーバーとして東北大学災害科学国際研究所の丸谷教授、仙台市危機管理局減災推進課様にもご参加いただき、総勢 40 名程の訓練となりました。

訓練では毎回、運営スタッフ役と帰宅困難者役のメンバーを入れ替え、より多くの方にご参加いただくことで多角的な課題抽出を行っています。今回の参加者からは「一時滞在場所がどのような役割をもつのかイメージ出来た」「マニュアルや備品が準備されていて安心感がある」等のポジティブな意見から、「どこに何の備品が保管されているかを明記すれば、よりスムーズな設営が可能」「予想される帰宅困難者からのリクエストを Q & A にして掲示すると良い」等、多くの改善提案が挙がりました。

抽出された課題は、マニュアルのアップデートや運営に必要な備品類の拡充等につなげ、今後の訓練で効果検証を行いながら引き続きより良い施設の運営に役立ててまいります。



避難者からのリクエストへのきめ細やかな対応

訓練参加者からの感想と抽出された課題

- ・エアマットレスや食料などの豊富な物資があり、一時的な避難場所としてとても充実している。(帰宅困難者役)
- ・避難者へ滞在可能な日数等の今後の動きについて説明する時間があると親切だと感じた。(帰宅困難者役)
- ・案内表示や掲示に使用するテープ等の文具類は使用頻度が高いので十分な量を備えておく必要がある。(運営スタッフ役)
- ・ずっと立ちっぱなしで対応していると脚が疲れるのでスタッフも休めるように椅子があると良い。(運営スタッフ役)
- ・避難者からの問い合わせやリクエスト等に対して誰がどのように対応したのか、スタッフ間で情報を共有するためのホワイトボードが必要。(運営スタッフ役)
- ・これまでの訓練は主に運営体制等の「構築」が目的だったが、今回から「改善、改良」のフェーズへ移行したと感じた。(オブザーバー)